

特集 「2013 年度人工知能学会全国大会（第 27 回）」

近未来チャレンジ

服部 正嗣（NTT コミュニケーション科学基礎研究所），村川 賀彦（株式会社富士通研究所）

1. はじめに

近未来チャレンジとは、挑戦的でありながら、5 年以内という短期間で実現できる強力な人工知能技術を世に送り出そうという企画である。提唱者が全国大会にてセッションを運営する点などはオーガナイズドセッションと共通するが、下記の 2 点で大きく異なる。

- 聴衆がアンケート評価を行い、その結果によってチャレンジ採用や次年度の継続が決定する点
- 採用・継続決定のたび、近未来チャレンジ特集号に近未来チャレンジ基準で査読される論文が投稿できる点

全国大会では、新規応募したニューチャレンジャーが聴衆にテーマ採択を訴えるニューチャレンジセッションと、採択されたテーマの発案者が次年度継続を訴えて運営を行うサバイバルセッションの 2 種類のセッションが開催される。詳しい評価方法や過去のテーマなど、さらに詳しく近未来チャレンジについて知りたい方は、公式 Web サイト (<http://ultimavi.arc.net.my/ave/CREP/>) を参照されたい。

2. 今年度の運営模様

2・1 ニューチャレンジセッション

今年は 4 件の応募があった。

- クラウドベースのロボットサービスの統合基盤
既存の業界団体の枠組みを利用しながら、企業では難しいソフトウェア実装に関するプラットフォームの確立提供を目指している。採択された。
- 認知症の人の情動理解基盤技術とコミュニケーション支援への応用
実際の医療現場で日々認知症と向き合っている医師が共同発案者であり、問題へのアプローチが実践的になることが期待される。採択された。
- コト・データベースによるモノ・コトづくり支援
本テーマは現在、病院を対象として支援を実践しているため、「認知症の～」とのコラボレーションを期待する声も多かった。採択された。
- 文字に汚染されない子供たち
人工知能関連ではない、NPO 法人所属の発案者が挑戦した。残念ながら採択されなかった。

2・2 サバイバルセッション

サバイバルセッションについては、次ページ以降に運



成田雅彦氏

竹林洋一氏

上野秀樹氏



西村拓一氏

図1 ニューチャレンジセッションでテーマ採択された登壇者の方々

営者自身が執筆した運営模様が掲載されているのでこちらもご覧いただきたい。

●Total Environment for Text Data Mining

今年 3 年目を迎えた、テキストマイニング統合環境構築テーマである。昨年度と比べて実用化の評価が大きく向上し、サバイバル（テーマ継続）した。

●異種協調型災害情報支援システム実現に向けた基盤技術の構築

東日本大震災を受けて企画され、去年採択されたテーマである。災害時に役立つ人工知能技術について会場では熱い議論が交わされた。サバイバルした。

3. おわりに

近年、新規テーマの申込みが増加傾向にあり、近未来チャレンジは活況を呈している。

特集号の査読基準では、5 年以内にチャレンジが達成できるか否かが重視される。つまりチャレンジ期間の後半になればなるほど達成度が問われるが、前半は達成に向けた計画の妥当性が問われる。何年もかかるような挑戦的なテーマに取り組みたいが、それでは論文としての成果は上がらないとお悩みの方に適していると思われる。ぜひ参加をご検討いただきたい。

また、自身が発案者とならなくとも、聴衆（審査員）としての参加も大歓迎である。評価を行うだけではなく、挑戦的なテーマ発表を聞き、どうすればその実現に近づくかについて、それぞれの専門性から建設的な意見をいただければ、近未来チャレンジはさらに意義深くなると期待する。